

番組審議会

第638回

令和2年5月

■審議会の構成

委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 江 澤 佐知子 尾 縣 貢
萱 野 稔 人 喜田村 洋 一
佐 藤 智 恵 長 嶋 有
藤 原 帰 一 水無田 気 流

TBSテレビ 佐々木 社 長
國 分 常務取締役
伊佐野 取締役
合 田 編成局長
本 田 報道局長
志 賀 情報制作局長
佐 藤 情報制作局情報二部長
朝 倉 プロデューサー
中 山 編成考査局長
鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長
岩 村 番組審議会事務局長

- 今回の審議会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一堂に会しての会合とせず、各委員が意見表明の書面を提出し、それをもとに意見を交換した。

■議事概要

(1) 審議事項

- 1) 「グッとラック！」 5月8日（金）放送分
- 2) その他

(2) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

（「グッとラック！」について）

- 冒頭、車中泊を余儀なくされる若者から、学校やデパートの再開、銀座の料理屋から群馬の温泉、青森のカラオケ店、宮城のボウリング場、静岡の動物園と、実にたくさんの時間を割いていた。似たような窮状にみえて、実際には職種や地域ごと、個別の問題点や対応の微差があることがよく分かり、地味だが、有意義なボリュームと内容だった。
- コメンテーターのうち何人かの方には、その方ならではのコメントのバックグラウンドや、多様な視点の提示を感じられなかった。他の曜日も見たが、全体として、コメンテーターの発言に、新たな視点や発見を感じさせてくれるものが少ない印象を持った。
- 災害時の避難と感染症対策について取り上げたコーナーがよかった。放送日前後に地震が頻発していたし、梅雨や台風の季節を迎えることを考えると時宜に合ったコーナーであり、視聴者にとって、とても有益な情報だった。また、避難所に人々がぎゅう詰めになった光景を見た志らくさんが「これは昭和の光景だ」と喝破したところは彼らしい視点、言葉が生きた場面だった。
- 志らくさんは無理やりに独自の意見を言おうとしたり、やたらと存在感を出そうとせず、努めて穏当にしている印象だ。そのせいで存在感薄く、個性が発揮されていないようにもみえるが、コロナのように状況が激変する災害時

にはその方がよいと判断されているのだろうし、それで悪いということはないと思う。

- 志らくさんがまだメインキャスターとしての役割に馴染んでいない印象である。鋭い一言を求められるコメンテーターと異なり、メインキャスターは番組の流れを作らなければならない。彼はその違いを十分に知っているように見えるが、それを自覚しているために話す言葉の力が弱まった印象を受けた。
- 「せやろがいおじさん」のVTRで示された主張の主語は誰なのか、不明確なのが気になる。内容が番組の主張であればそう明記すればよいし、彼独自の主張であれば、そのことを明確にした方がよい。もちろん、VTRの内容(主張)の責任は、番組側にあるわけだが、番組の「社説」のような位置づけなのか、こんな主張もありますという紹介なのか。
- 「志らく一段らく」は、彼の博学ぶりを背景に、新たな視点が示されるコーナーなのだろうが、審議対象回は、あまりにも有名なピカソの『ゲルニカ』についてで、その基礎的情報の説明だけでコーナーの半分を使ってしまい物足りなかった。彼の魅力を存分に発揮できるコーナーなので、もう少し準備をして切れのあるメッセージを出して欲しい。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)